

“60秒でサッと読めます”



## 企業の活力とは

( 会計の工夫 51 )

平成 25 年 3 月 6 日 (水)

沖縄総合事務局財務部の地域密着型金融のシンポジウムはもう 7 回目を迎えた。今年のテーマは、「**中小企業の活力を引き出すために**」であった。地域密着型金融(リレーションバンキング)の必要性が叫ばれて、10 年を経過するが、振り返ると地域金融機関の地域の中小企業や社会に対する働きかけ、地域が金融に期待するところが、このアクションプランを通じてよく理解できたと思う。今回の「**中小企業の活力**」を引き出すために、というテーマは、この 10 年間の集大成とも言えると感じている。何故ならば、**地域の中小企業の活力なくして地域の経済や社会の活性化は無く、ひいては地域金融機関の永続もあり得ない。**

最初の頃、リレーションシップバンキングという言葉聞いて、それは地域金融機関には当然ではあるが、肝心の中小企業にとってはぼんやりとして明確ではなく、実効性の低いものではないかと思った。金融機関は、一般の利用者にとって一段高いところにあるものといった感すらあったのである。融資一つを取って見ても、資金不足の中小企業にとっては、ややもすると気遅れして、書類をそろえるのも大変で、資金の調達が遅れたり、あきらめたりすることも多かったのではないか。まして、**担保、保証に頼らない融資**というのは、**現実との間にいまだ大きな隔りがあった。**それは、貸し手のサービス不足に起因する借り手と貸し手の**情報と認識の格差**でもあった。

次に、企業の**ライフサイクル**に応じた**支援**ということが言われた。それは、借り手企業の**ライフサイクル**の各段階、状況に応じた資金供給により事業価値を見極めるといふ金融機関の融資手法であり、中小企業に適した資金供給手法による金融支援である。**企業の創業・起業から事業の再生・再構築、そして事業承継**まで、地域のニーズに対応できる**地域金融の支援体制**の構築であり、併せて生活支援や利用者保護を含む地域金融への大きな期待であった。

更に、金融円滑化法の実施に際して、**コンサルティング機能の充実**が強調された。これは、地域金融機関はお金の外に知恵を貸すということである。貸し手が提供した資金の有効活用であり、地域金融機関が、中小企業の経営改善のために、**経営課題に応じた最適な解決策**を借り手の立場に立って提案し、時間をかけて実行支援する趣旨である。**お金というハード的で均質なものの提供だけでは充分でなく、知恵というソフト的で多様なものの提供が必要**ということである。

そして今、**中小企業金融円滑化法の期限到来**を迎えた。中小企業の経営改善、事業再生のための**総合的な対策の推進**ということが特に重要という時期を迎えた。これは、ある意味で施策の仕上げであるが、新しい施策の出発点でもある。この 10 年を振り返ると、金融施策というものが、時には言葉だけの場合もあるが、時には速攻性があり、停まることなく、水が地面にじわじわと沈むように少しずつ地域に進展して行く感がある。